

# 十和田市立 新渡戸記念館だより

平成10年度裏打ち絵図面より

## 水車を動力とした 幕末製鉄所の絵図面を紹介

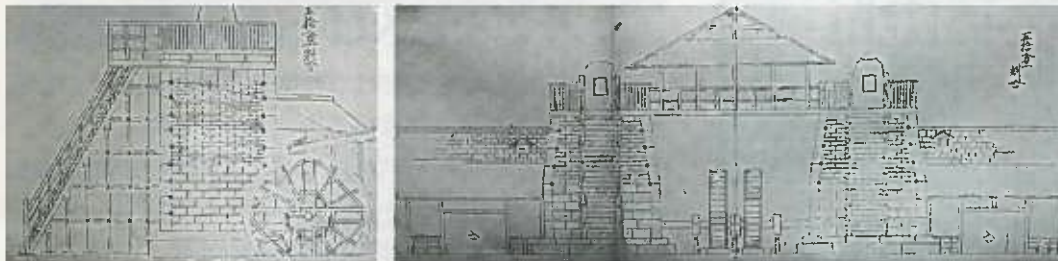
現在新渡戸記念館では、張り合わせ部分がはがれ、バラバラになりかけている絵図面の裏打ち（裏から和紙をはり補強する作業）を行っています。10年度に裏打ちされた絵図面から、幕末の製鉄所絵図面をご紹介します。

### 三本木原開拓と同時期 釜石に築造された南部盛岡藩の製鉄所に酷似

この絵図面は、水車を送風の動力として使用した、幕末の製鉄所を描いたものです。鋳物師、鍛冶屋、大工、石工、人足など、製鉄所で働く人びとが寝泊りしながら仕事ができる施設が描かれています。水車を使った高炉は新渡戸傳・十次郎による三本木原(十和田市)開拓と同時期、大島高任により考案され安政5年(1858)現在の岩手県釜石の製鉄所に築造されたものと酷似しています。今後、詳しく調査していきたいと思ひます。



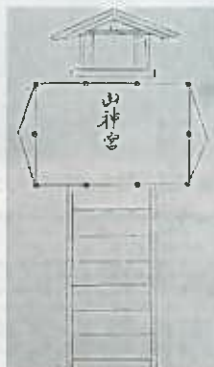
▲幕末の製鉄所絵図面



◀50分の1の大ききで精巧に描かれ、高炉2基が備え付けられたものと、1基だけのものの2つが描かれています。送風には水車が使われています。

### 新渡戸十次郎の 三本木原産業開発に関する資料か

三本木原開拓では十次郎が中心となり産業開発を行い、馬市などの産業を起しています。他にも養蚕や瀬戸物生産、硝石(火薬)製造など様々な産業を起すことを考え、いくつかを試みています。この絵図面のような高炉式製鉄所を、稲生川の水を利用し操業することも検討したのかもしれませんが。



山神の宮。製鉄所の入り口には、山神をまつるお宮が記されています。

おおしま たかどう  
**大島高任** (1826~1901)

幕末・明治前期の冶金技術者。南部藩盛岡出身。オランダの技術書をもとに、日本の在来技術を取り入れ木炭燃料の洋式高炉を釜石に創設。近代日本の製鉄技術の原点を確立。(「広辞苑」より)

### 現在展示中

## 平成10年度は 31点の裏打ちが 終了しました

平成10年度分としては、開拓に関する資料とともに、秋田や津軽など他藩領の絵図面や、兵法に関するものなど31点を裏打ちしました。その内、左の2点を含む6点を現在記念館内に展示しています。



▲出羽国秋田之図



◀南部領田名部海辺御山絵図

平成11年度

# 太素顕彰会役員・評議員

顧問	新渡戸 稲子	(遺族)
会長	中野渡 春雄	(十和田市長)
副会長	稲本 純一	(十和田商工会議所会頭)
常任理事	新渡戸 明	(新渡戸記念館館長)
理事	丸井 彪	(稲生川土地改良区理事長)
理事	桜田 弥四郎	(十和田市議会議長)
理事	中野 正志	(十和田市教育委員会委員長)
理事	中野渡 美喜	(十和田市農協代表理事組合長)
理事	沼田 吉衛	(十和田市町内会連合会会長)
理事	大川 晃	(十和田市経済部長)
監事	気田 武夫	(十和田市教育委員会教育長)
監事	佐々木 広雄	(稲生川土地改良区理事)

役員、評議員に一部変更がありました。本年度の名簿を掲載いたします。

評議員	小佐野 政邦	(十和田観光電鉄㈱社長)
評議員	木村 祐直	(十和田市商店街連合会会長)
評議員	四橋 弘泰	(十和田青年会議所理事長)
評議員	程川 節男	(十和田市農協専務理事)
評議員	佐々木 登	(上十農業共済組合長理事)
評議員	田浦 吉喜	(砂土路川土地改良区理事長)
評議員	馬場 栄太	(十和田土地改良区理事長)
評議員	安野 祐功	(遺族)
評議員	山崎 誠一	(十和田市農業委員会会長)
評議員	稲本 純一	(十和田市観光協会会長)
評議員	田中 陽一	(十和田市建設業協会会長)
評議員	稲本 純一	(十和田信用金庫理事長)

いなおいがわしょうすい

## ★記念館では稲生川上水記念展『上水成功の記録』

### 『そのとき人びとは…』を開催★

5月3日から記念館では『上水成功の記録—そのとき人びとは』と題し、稲生川上水記念展を開催しました。館内に企画展示スペースがありませんので、一階常設展示室北側の「人物コーナー」を一時片付け、コーナーを作りました。展示期間は当初5月30日まででしたが、好評につき1ヶ月延長し6月30日まで展示しました。



▲開拓日誌をかたどった看板



▲パネルも日誌のページをモチーフに

## ★記念展について 東奥日報で5回連載★

記念展について、東奥日報で6月8日～12日まで5回連載されました。展示内容を、上水の時人びとが何を感じたか、川ができたことによる地域の変化などにまとめて紹介されました。



5月3日～5日

## たいそ 太素祭を開催

平成11年太素祭が行われました。期間中は例年通り記念館を無料公開し、3800人余の入館者がありました。

### ★取り壊した演舞場にかわり

#### イベントカーが活躍★

長い間、太素塚境内演舞場を使って太素祭期間のイベントの多くを開催していましたが、演舞場老朽化のため昨年取り壊し、今年の催しはイベントカーで行いました。

広くなった境内では上切田小学校の児童たちによる駒踊などの民俗芸能が奉納されました。また、十和田水神雷太鼓などの演奏が太素の柱に響き渡り、太素祭として三日間で約68,000人の人出を記録しました。



▲イベントカーが大活躍



太素祭は地域の民俗▶  
芸能にふれる機会でも  
あります

# レポート

みょうちん

## 新渡戸家伝来・戦国時代兜の作者

# 明珍勝正の兜を栃木県で発見！

平成11年3月18日栃木県立博物館にて調査

## 作例の少ない 明珍勝正の甲冑

『日本甲冑大鑑』(笠間良彦著)によると、明珍勝正は明珍16代義保の弟・勝義の息子で、室町時代末期(戦国時代)上野国(現群馬県)に在住した甲冑師です。明珍派の名工・信家の弟子で、師ほどの腕ではないが作風は酷似しているといえます。甲冑の名作を図で記した古文書『名甲図鑑』(松宮観山著)には、勝正作の“面頬”(顔を守る甲冑)四つが描かれています。栃木県立博物館人文課長・千田孝明氏にうかがったところ、勝正作の兜は残っているものが少ないとのことでした。記念館所蔵の兜は、勝正の作例として珍しいものといえます。

## 二つの兜には 同一の作風が

記念館所蔵の兜と、栃木県に残る兜を見比べると、その作風が大変似ていることがわかります。双方とも“前正中の板”(兜鉢の真正面に使われる板)裏に「勝正作」と銘があり、「黒漆塗」と「錆色塗」の違いはありますが同じ六十二間筋兜で、鉢の形、鉢の打ち方、“天辺の座”(兜頂部穴周囲)の細工、“眉庇”(兜のつば部分)の形など酷似しており、今後の正式な鑑定が待たれます。



▲当館蔵 錆色塗六十二間筋兜・勝正作



◀栃木県個人蔵 黒漆塗六十二間筋兜・勝正作



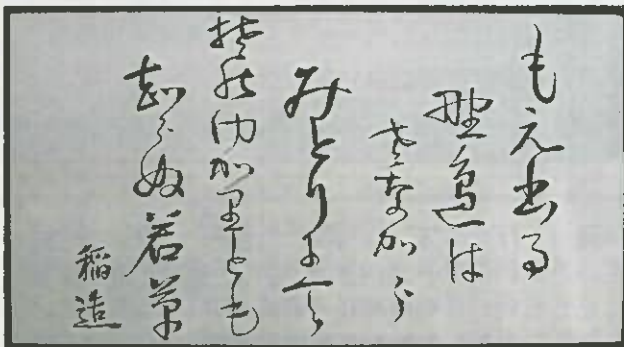
### 甲冑ひとくちメモ

兜の部品一つ一つにも名前があります。

写真：当館蔵 勝正兜

## 新収蔵資料から

縦・四九／横・九二(cm)



## 新渡戸稲造博士直筆の書

もえ出る 野辺は  
さながら みどりにて  
そのゆかりとも 知らぬ若草



晩年の稲造

「芽吹きをの時期を迎えた野原は全て緑色になっているが、自分がそれと関係があるものだとは、知らない若草よ」高倉天皇の寵姫・小督の歌。『拾遺風体和歌集』に収録されており、仏教思想に基づいた「釈教歌」です。キリスト教者の枠にはまらない稲造思想ががいま見えます。

## ありがとうございました

- ◆ 大久保順蔵さん(東京都在住・元三本木農業高校長)より『新渡戸稲造傳』(石井満著/昭和10年版)1冊を寄贈いただきました。
- ◆ 杉本敬三さん(市内下平在住・杉工房)より写真引き伸ばし機一式を寄贈いただきました。複写用としても活用したいと思います。
- ◆ 米沼芳蔵さん(市内元町在住)より太素塚へ、オンコ、もみ、さつきの樹木とアヤメや水仙などの草花を寄贈いただきました。

## 関連情報

### ●太素顕彰会事務局に異動がありました

平成11年4月太素顕彰会事務局スタッフに人事異動がありました。長年太素顕彰会事務局次長を務めた高田重利商工観光課長補佐は、教育委員会生涯学習課課長補佐へ転出し、後任として同学務課より久保田博衛課長補佐が着任しました。お二人の活躍を期待しています。

### ●紀伊国屋書店・ビデオ評伝シリーズ「学問と情熱」(全20巻)の第11巻で新渡戸稲造を紹介

紀伊国屋書店創業70年記念企画として刊行しているビデオ評伝シリーズ「学問と情熱」(価格/各巻25000円+税)の第11巻で新渡戸稲造が紹介されています。稲造博士の生涯を40分ほどのビデオにわかりやすくまとめられています。この取材には当館も協力いたしました。ご覧になりたい方はどうぞ記念館までおいで下さい。



### ●太素塚・春の清掃奉仕活動

十和田東ロータリークラブ/本瀬戸山老成会/大学通り老成会/三本木農業高校/三本木小学校ボランティアクラブ/ 皆さんありがとうございました。

### <編集後記>

稲生川上水141年の太素祭より『上水成功の記録—そのとき人びとは—』展を開催しましたところ、大変好評を得ました。視点を変えることによって、わかり易く三本木原開拓の様子をお知らせできればと考えております。

### ●来館小学校

〈十和田市〉柏小学校・米田小学校・東小学校〈八戸市〉森木小学校・大久喜小学校〈七戸町〉七戸小学校〈東北町〉甲地小学校〈福地村〉福田小学校

## 活動報告

### ●昨年復元した明治天皇行在所<sup>あんざいしょ</sup>の解説板を設置

石碑の由来や、修復して現在の場所に設置した経緯を記すとともに、昭和初期に撮影された行在所・新渡戸邸の写真、行在所跡の場所を示す地図を掲載しました。



### ●館長を講師とする講演会

- 4/17 三沢市民大学趣味講座 (三沢市公会堂)
- 5/25 青森県あすなる尚学院 (青森市中央市民センター)
- 5/26 青森県あすなる尚学院 (十和田市文化センター)
- 5/27 十和田湖町ろまん大学 (十和田湖町立公民館)
- 6/7 青森県あすなる尚学院 (むつ市公民館)

### ●通信記念日(4/20)に館長が一日十和田郵便局長をつとめました。

### ●青森県史編さん室・平成11年度第一回近世部会会議(6/26・27)ならびに青森県博物館等協議会・平成11年度理事会、総会(6/29)に館長が出席しました。

### ●5月3日~6月30日・稲生川上水記念展『上水成功の記録—そのとき人びとは—』を開催しました。(2面)

### ●3月18日栃木県立博物館にて新渡戸家伝来甲冑の調査を行いました(3面)

相坂川左岸農業水利事業所と北里大学獣医畜産学部  
の共同制作ホームページ「三本木原開拓博物館」の  
アドレスが変更になりました。

<http://www.jomon.ne.jp/~aisaka02/sanmuse.htm>

発行 太素顕彰会  
十和田市立新渡戸記念館  
☎034-0031 青森県十和田市東三番町24-1  
TEL (FAX) 0176-23-4430  
印刷 有限会社 岩間印刷所